

(様式1)

平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 031	提案機関名 農業技術センター普及指導部
要望問題名 さがみ粒土に替わるいちご育苗培土の選定及び育苗培土の作成について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 浄水汚泥から製造したさがみ粒土はいちご育苗培土として広く使用されている。ロットや製造方法の変更などによる品質の差については、研究成果により克服できたところである。 しかし、さがみ粒土を生産している企業庁では、さがみ粒土の入札による透明な販売が検討されはじめており、入札が実施されると、今後、安価にさがみ粒土が入手できない可能性が高まっている。 そこで、さがみ粒土の入手ができなくなった場合の対応のため、安定的な生育ができ、かつさがみ粒土の代替が可能な低価格な育苗培土もしくは育苗培土の作成について検討していただきたい。	
解決希望年限	① 1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ② 2～3年以内 ③ 4～5年以内 ④ 5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	野菜作物研究部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 当所ではこれまで浄水汚泥由来のさがみ粒土について、イチゴ育苗培土としての利用方法を確立してきました。さがみ粒土は安価であるため、イチゴの育苗培土として毎年500t以上の利用実績があります。さがみ粒土が入手不可となった場合、県内のイチゴ生産者にとって経済的だけでなく、生産上も大きな問題となります。 しかし、さがみ粒土の代替培土を考えた場合、容易に入手でき、多量に利用できる低価格な培土は現在のところ存在しません。今後は十分量確保できる培土についての情報を収集・提供するとともに、それらに関するイチゴ育苗培土への利用の可能性を検討します。併せて、さがみ粒土に関する最新の流通情報について共有をお願いします。			
解決予定年限	① 1年以内 ② 2～3年以内 ③ 4～5年以内 ④ 5～10年以内		
備考			